

紹介受診重点医療機関に係る協議

（１）経緯

- 令和４年４月に、外来機能報告制度が施行され、外来機能の明確化・連携に向けて、地域においてデータに基づく協議を行い、紹介受診重点医療機関を明確化（公表）することとされた。
- 紹介受診重点医療機関を明確化することにより、**外来患者の流れの円滑化による外来患者の待ち時間の短縮や、勤務医の外来負担軽減等**が期待されている。
- これまで、本県では、地域医療構想調整会議において、外来機能報告のデータを基に協議した結果、**10医療機関が紹介受診重点医療機関となることで協議が整ったため、右表の10医療機関を県のホームページで公表中**である。

【紹介受診重点医療機関一覧(令和5年12月1日時点)】

二次保健医療圏	医療機関名称
津軽	弘前大学医学部附属病院
津軽	独立行政法人国立病院機構弘前総合医療センター
津軽	弘前中央病院
津軽	鳴海病院
八戸	八戸市立市民病院
八戸	独立行政法人労働者健康安全機構青森労災病院
青森	青森県立中央病院
青森	青森市民病院
西北五	つがる西北五広域連合つがる総合病院
上十三	十和田市立中央病院

紹介受診重点医療機関に係る協議

(2) 令和6年度外来機能報告の状況（県全体）

- 今般、令和6年10～11月に実施された令和6年度外来機能報告のデータを確認したところ、次のとおりであった。
 - ① 基準を満たす、かつ、意向があり : 8医療機関（うち八戸赤十字病院が新規）
 - ② 基準を満たす、かつ、意向がなし : 3医療機関
 - ③ 基準を満たさない、かつ、意向があり : 3医療機関
- ①と③の11医療機関については、現在、紹介受診重点医療機関となっている10医療機関と八戸赤十字病院から、紹介受診重点医療機関となる意向が示されたものである。

(3) 今回の協議の進め方（書面開催）

- ▶ 構成員は、各医療機関の紹介受診重点医療機関検討票を確認し、**紹介受診重点医療機関と「なる（①と③の場合）」又は「ならない（②の場合）」ことの適否について、県（事務局）へ意見票を提出する。**
 - ▶ **全ての構成員が「異議なし」との意見の場合は、医療機関の意向のとおり紹介受診重点医療機関となる（又はならない）こととし、1構成員でも「異議あり」との意見の場合は、次回再協議を行うこととする。**
- ※ 県では、③の医療機関に係る基準の達成の状況を継続的に確認していく予定としています。
- ※ 協議対象医療機関以外の医療機関に関する内容も含まれた全体データは、準備が整い次第、県のホームページで公表します。外来機能の検討時など、必要に応じて御利用ください。

紹介受診重点医療機関に係る協議【参考資料】

参考資料1 紹介受診重点医療機関の概要（厚生労働省の資料一部抜粋）

○ 外来機能の明確化・連携を強化し、患者の流れの円滑化を図るため、紹介受診重点外来の機能に着目して、以下のとおり紹介患者への外来を基本とする医療機関（紹介受診重点医療機関）を明確化する。

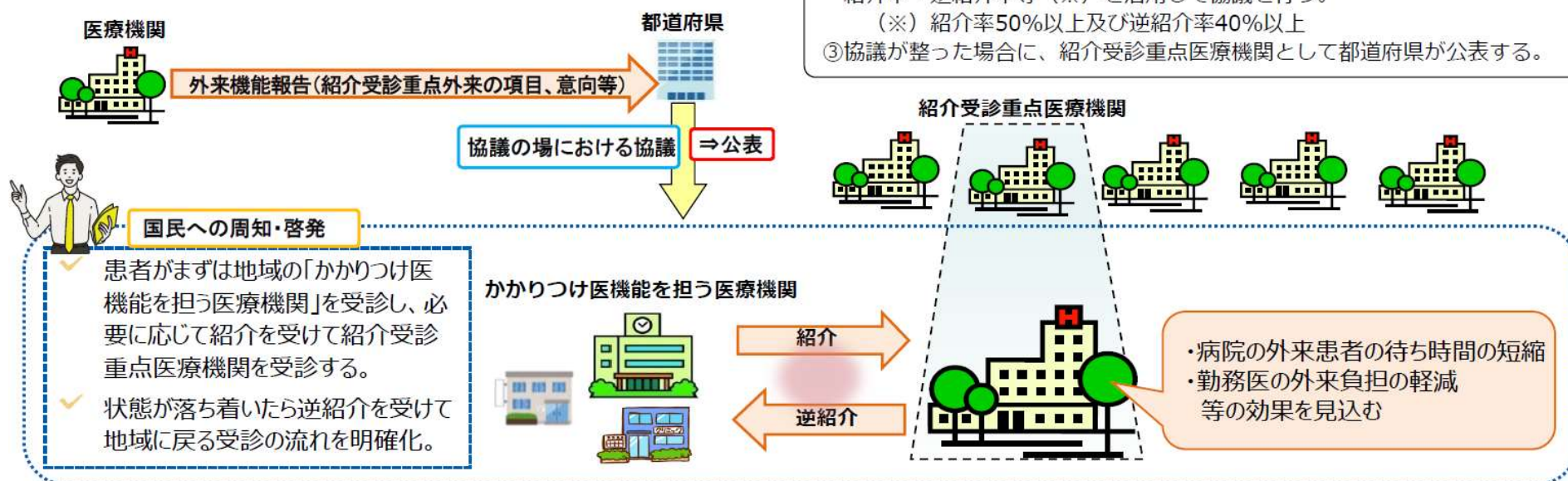
- ① 外来機能報告制度を創設し、医療機関が都道府県に対して外来医療の実施状況や紹介受診重点医療機関となる意向の有無等を報告し、
- ② 「協議の場」において、報告を踏まえ、協議を行い、協議が整った医療機関を都道府県が公表する。

【外来機能報告】

- 紹介受診重点外来等の実施状況
 - ・ 医療資源を重点的に活用する入院の前後の外来
 - ・ 高額等の医療機器・設備を必要とする外来
 - ・ 特定の領域に特化した機能を有する外来
- 紹介・逆紹介の状況
- 紹介受診重点医療機関となる意向の有無
- その他、協議の場における外来機能の明確化・連携の推進のための必要な事項

【協議の場】

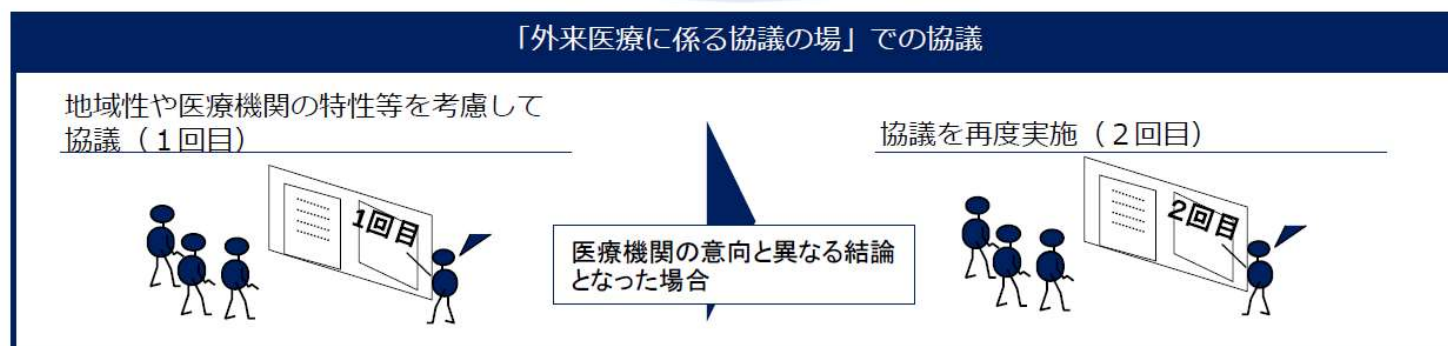
- ① 紹介受診重点外来に関する基準（※）を満たした医療機関については、紹介受診重点医療機関の役割を担う意向を確認し、紹介率・逆紹介率等も参考にして協議を行う。
（※）初診に占める紹介受診重点外来の割合40%以上 かつ
再診に占める紹介受診重点外来の割合25%以上
- ② 紹介受診重点外来に関する基準を満たさない医療機関であって、紹介受診重点医療機関の役割を担う意向を有する医療機関については、紹介率・逆紹介率等（※）を活用して協議を行う。
（※）紹介率50%以上及び逆紹介率40%以上
- ③ 協議が整った場合に、紹介受診重点医療機関として都道府県が公表する。



紹介受診重点医療機関に係る協議【参考資料】

参考資料2 紹介受診重点医療機関に係る協議の進め方（厚生労働省の資料一部抜粋）

		意向あり	意向なし
紹介受診重点外来の基準	満たす	1 紹介受診重点医療機関 *「外来医療に係る協議の場」での確認	2 「外来医療に係る協議の場」での協議
	満たさない	3 「外来医療に係る協議の場」での協議	



【紹介受診重点外来の基準と医療機関の意向の考え方】

- 1 「紹介受診重点外来の基準を満たす×意向あり」の場合
 - ・ 特別な事情がない限り、紹介受診重点医療機関となることが想定される。
- 2 「紹介受診重点外来の基準を満たす×意向なし」の場合
 - ・ 当該医療機関の意向が第一であることを踏まえつつ、当該地域の医療提供体制のあり方を協議の上、2回目の協議に改めて意向を確認する。
- 3 「紹介受診重点外来の基準を満たさない×意向あり」の場合
 - ・ 紹介受診重点外来に関する基準に加え、紹介率・逆紹介率等を活用して協議を行う。

（参考）「外来機能報告等に関するガイドライン」

紹介受診重点医療機関に係る協議【参考資料】

参考資料3 協議フロー（厚生労働省の資料一部抜粋）

協議の場合での再協議が求められる



- *1 紹介受診重点外来の基準：
 ・初診基準：40%以上（初診の外来件数のうち「紹介受診重点外来」の件数の占める割合）
 ・再診基準：25%以上（再診の外来件数のうち「紹介受診重点外来」の件数の占める割合）
 *2 紹介率50%以上かつ逆紹介率40%以上を参考の水準とする。
 *3 基準の達成に向けたスケジュール等を書面又は口頭で説明を求め、その内容を公表する。

<既に紹介受診重点医療機関として公表されている医療機関について、協議を行う場合の留意点>
 *：協議が整わない場合、その協議までの協議結果を継続すること
 **：紹介受診重点医療機関ではなくなる場合も、協議の場の協議により、紹介受診重点医療機関にならないことを確認すること

（出典）外来機能報告等に関するガイドライン、令和5年5月17日付事務連絡「外来機能報告における協議の場の進め方」